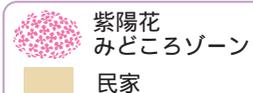


紫陽花まつり会場案内



修復工事のため一部立入りが制限されております。

2 旧浄法寺邸

松尾芭蕉と曾良は元禄2年4月4日(陽暦5月22日、1689年)に浄法寺図書(俳号桃雪)に招かれました。「おくのほそ道」によれば、「黒羽の館代浄法寺何がしの方に音信、思いがけぬあるじの喜び、日夜語つづけて云々」とあります。一族をあげて歓待したのでずいぶん居心地がよかったですでしょうか、黒羽で十三泊、十四日の長逗留であり、とりわけ浄法寺邸には八泊しました。翁は、書院から「奇峯乱山かたちをあらそひ一髪寸碧絵にかきたる」ような眺望をたたえて「山も庭も」に動き入るや夏座敷」と詠んでいます。句碑は、加藤鞆郎先生等により書院の跡に建てられました。現在の旧浄法寺邸は、芭蕉が逗留した当時の建物ではないが武家屋敷の趣を多分に残し、当時の雰囲気を残しています。

4 芭蕉の館

芭蕉に関わる資料と、黒羽藩主大関家の資料を常設展示しています。特別企画展は黒羽にゆかりのあるテーマで、市民の郷土の文化遺産への関心を高めさせています。建物は、八溝材を豊富に用いて重厚なたたずまいを誇っています。館の庭には、文学碑や芭蕉が馬に跨り曾良を従えているブロンズ像があり、当時の芭蕉の旅の姿がしのべれます。 0287-54-4151

開館時間/AM9:00~PM5:00(入館受付はPM4:30まで)
休館日/毎週曜日(祝日の時は翌日)・年末年始
入館料/大人...300円・小中学生...100円
〔団体〕 20名以上/大人...200円・小中学生...50円

1 大雄寺(だいおうじ)

黒羽藩主大関家の檀那寺として歴史も古く、建物は総力や書きで伽藍の本堂、坐禅堂、庫裡、回廊など室町時代の様式を残す禅寺です。城南要衝の地にあり、周囲は高い土塁をめぐらし戦があれば黒羽城の砦の機能を備えていました。参道入口に「不詳な鞆酒山門」と刻まれた石碑が苔むして立ち、老杉と共に厳肅な雰囲気漂わせています。5月初旬から中旬にかけては境内に多くのシャガやボタンが咲き誇ります。精神修養の場として坐禅に訪れる客も多いようです。 0287-54-0332

自由拝観(境内のみ)AM9:00~PM4:00 建物内拝観要予約

3 芭蕉の広場

「おくの細道」で芭蕉が歩いた足跡をたどりながら、由緒ある黒羽の見どころを散策することができるコースの中にあります。芭蕉の愛弟子であった黒羽藩城代家老浄法寺桃雪邸跡や句碑があり、庭園内には梅、東国三葉つつじ、紫陽花等が咲きほこり、秋の紅葉と四季折々の風情を楽しむことができます。

- ① ~ ⑬ 撮影ポイント
- ⑫ と ⑬ はスペシャルポイント
- ⑤ は堀の下から上を見上げて
- ⑥ は階段下から上を見上げて